

大髙　翔
協創のしろ

グーグルワークスペースの全庁導入

問 秋田県の事例ではペーパーレス化議事録作成の省力化が図られ、コミュニケーションのスピードと質の向上が図られている。先行して県が取り組んでいる事業でもあるので、市でも導入しては。

答 グーグルワークスペースは、情報共有の円滑化や職員間の連携強化、モバイルへの対応による業務効率化等が期待できる一方、既存アプリケーションとの機能面の違いや費用対効果、セキュリティー対策等の課題があることから、現在のグループウェアの更新時期を見据え、秋田県等の先進事例も参考に、全庁導入の可能性について研究していきたい。

第10期介護保険事業計画

問 第9期計画へ移行時は介護給付費準備基金を約4億円切り崩しての基準額の据置きを決めている。6年度末基金残高は約7億5千万円。第10期計画でも基準額を据え置くことは財源的にも可能では。

答 第10期介護保険料については、直近の介護サービス量等の実績を分析し、今後3年間で見込まれるサービス量や給付費等の推計、介護給付費準備基金の残高、介護報酬改定等を踏まえて精査するとともに、能代市活力ある高齢化推進委員会の意見を伺いながら、適切な保険料となるよう検討してまいりたい。

その他の質問事項
- ○旧崇徳小校舎を活用した私立小学校設置
- ○略式代執行を行う考えは
- ○4月20日に発生した上水道の濁り



畠　貞一郎
市民ネットワーク
（大河の会・能代民政会・市民の風）

鍋谷市政の議会及び市民との向き合い方

問 これからの市政運営において、こどもまんなか交流施設のように大変困難な事案が多く出てくると思う。政策決定の過程の透明性とその納得性が必要となる。市長は議会・市民とどう向き合うのか。

答 市政運営に当たっては、情報公開と丁寧な説明に努め、意見集約を図りながら理解と納得を得て進めることが重要であると考えている。今後も市民の代表である議員との建設的な議論を重視するとともに、市民へ分かりやすく情報提供しながら、できる限り対話の機会を設けていきたい。

能代火力発電所の存続

問 能代火力1号機は平成5年に運転を開始し、誘致するにも長い時間と市・議会・商工会議所等多くの要望により実現した。脱炭素による廃炉も懸念されるが、官民一体で存続の要望をするべきでは。

答 能代火力発電所は、本市の産業振興や雇用の確保に大きく貢献してきた重要な施設であり、再生可能エネルギーの導入が進展する中でも電力の安定供給に重要な役割を担っている。こうしたことから、東北電力株式会社に対し、環境に配慮しながら可能な限り運転を継続するよう要望してきており、今後も続けていく。

その他の質問事項
- ○アンモニア混焼
- ○能代市水素ラボ構想



船越　俊幸
協創のしろ

地域で支える秋田しらかみ看護学院

問 学院の存続と看護人材確保へ、ふるさと納税による支援を検討する考えは。また、社会人やAターン希望者を対象に、市として「能代で学び、暮らし、働く」支援パッケージを構築してはどうか。

答 秋田しらかみ看護学院の学生確保に向け、同学院や山本郡3町等と連携し、ふるさと納税等の財源確保に努めながら、補助金を含めた支援の在り方を検討したい。また、学生の確保に向け、支援の在り方について検討を進めていく中で、社会人やAターン希望者等にターゲットを絞った有効な手段について、調査研究を行っていきたい。

ケアマネとともに市独自運用の改善を

問 令和9年9月の介護情報基盤の運用開始を見据え、負担軽減に向けて、一次判定情報の提供、申請書類、窓口説明、ケアプランチェックなど、市独自の運用を現場とともに点検し、改善する考えは。

答 要介護認定の申請等における対応については、それぞれの根拠や考え方を丁寧に説明し、ケアマネジャーの理解を得られるよう努めるとともに、今後はケアマネジャーの意見を聴く機会を検討するなど連携をさらに深め、様々な意見を伺いながら、よりよい仕組みづくりに努めていきたい。

その他の質問事項
- ○地域医療からのまちづくり